

日本における国際惑星地球年の活動について

International Year of Planet Earth in Japan

宮崎 光旗 [1]

Teruki Miyazaki[1]

[1] 産総研

[1] AIST

国際惑星地球年とは、地球科学の知的すばらしさと社会的有用性、経済的有効性の認知・理解を社会一般に広め、地球科学の成果を人々に伝え、活用してもらうための国際的活動です。

国際惑星地球年は、ユネスコと国際地質科学連合が核となり、国連国際年 2008 年を中心とする 2007 年から 2009 年にかけての 3 年間にわたって行われます。

その活動はアウトリーチ活動と科学プログラムに大別されます。アウトリーチ活動は、地球科学への関心を広く一般に広め、そして地球科学の成果を人々の手に渡す活動です。特に現在の社会を担当する政策担当者と未来の地球を担う青少年に向けて活動していきます。

一方の科学プログラムは、下に掲げた 10 のテーマの社会的課題に対して、地球科学研究により、その解決策を明らかにすることです。

- ・地下水 ー乾いた惑星の蓄え?
- ・災害 ー危険を最小に、知識を最大に
- ・地球と健康 ーより良い環境を作るために
- ・気候変動 ー石に刻まれた記録
- ・資源 ー持続的利用に向けて
- ・巨大都市 ー世界的な都市化の未来
- ・地球深部 ー地殻からマントル、そしてコアまで
- ・海洋 ー時の深淵
- ・土壌 ー地球の生きている肌
- ・地球と生命 ー多様性のみなもと

日本でも、旧学会会議体制の下、国際年に対応するために地質学研究連絡委員会を中心として国際惑星地球年 (IYPE) 対応国内暫定実行委員会が 2004 年に発足し、準備を進めてきました。昨年秋の学会会議改革を経て新たな体制の下、この 7 月に学会会議地球惑星科学委員会国際対応部会の下に IYPE 小委員会が設立されました。この IYPE 小委員会が日本における IYPE 国内委員会となります。また、IYPE 小委員会を支援する事務局を産業技術総合研究所地質調査総合センターにおきました。

国内委員会と事務局は、Planet Earth のロゴを普及させたり、日本語のパンフレットを作成・配布したり、あるいは各種展示会でポスター展示を行うなど、国際惑星地球年の浸透に努めています。ウェブサイトの運営もその一貫です (www.gsj.jp/iype/)。この 1 月には「IYPE シンポジウム『国際惑星地球年 2007-2009』開催宣言式典」を催しました。

国内委員会の議論を元に、日本における IYPE 活動を、災害、資源、巨大都市の 3 テーマを中心として実行していくこととしました。これらテーマは日本社会の持続可能な進展と人間の安全保障に密接に関連したものであるからです。

公開講座などのアウトリーチ活動も重要です。これら行事はウェブサイトで紹介されます。また、アウトリーチ活動の中心には

- 日本での地質公園 (ジオパーク) の実現
 - 地学オリンピック参加など地球科学リテラシーの向上
- などが掲げられています。マスメディアと連携した教材作成なども検討しています。

GEOSS (Global Earth Observation of System of Systems) への貢献も考えられています。膨大な量の地球観測データをいかに災害軽減など社会に役立てるかは大変重要です。IYPE はまた、国連ミレニアム開発目標の成就と国連持続可能な開発のための教育の十年の目標達成にも大きな貢献をすることでしょう。

追記

前 IYPE 小委員会委員長の故大矢暁氏の広範な国際的貢献を記念して、IYPE 活動に貢献した個人・団体へ Satoru Ohya Medal が授与されることが 2007 年 1 月の第 1 回 IYPE 理事会で決定されました。国際惑星地球年 2007-2009 の直前に交

通事故が元で亡くなられた，故大矢氏に心から哀悼の意を表します。